

## 平成 26 年度科学技術人材育成重点枠の成果と課題（【②海外連携】）

① 研究開発の成果	
①定常的な海外連携による共同調査研究・発表・フィールドワークの実施の成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESDの視点で自ら思考し、判断することの意義と重要性を認識させることができる。</li> </ul>	
<p>各国で異なる固有の研修内容についての事前・事後調査を実施し、生徒の変容を比較した。それらの結果から、生徒は様々な環境問題やエネルギー問題について、フィールドワークを行う、関連企業や教育機関、行政機関への聞き取り調査を実施する、また言語や文化、教育環境等、異なる環境に触れるなどの経験を重ねることによって、問題を焦点化したり、具体化したりするなど、一層深く、また多面的に学ぶことができていることが分かった。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域固有の諸課題を地球規模で捉え、問題を発見する力や解決する力、また得られた内容を活用する力を養うことができる。</li> </ul>	
<p>各国の研修についての生徒のレポートを分析すると、「調べた内容を社会の関わりの中で具体的に活かすことは考えもしなかった」、「もっと両国を繋げるための広い知識が必要だ」、「経済活動と自然保護といった対立しがちな立場でも共に成り立っていかなければ、持続可能な社会はできない」といった問題意識を持つことができていることが分かった。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外の生徒と徹底的に議論することによって、英語によるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を養うことができる。</li> </ul>	
<p>研修に参加した多くの生徒は、意思疎通できたことの感動を味わう一方で、自分の意見をより正確に相手に伝える、または相手の意見を正しく理解することが必要であると認識していることが分かった。生徒は、こうしたコミュニケーション力の重要性を認識することを通して、より一層語学力を伸ばさせるきっかけを得ることができた。</p>	
②開発する教育内容の深化・発展を図ることの成果	
<p>事前・事後学習はもちろん、研修期間中の生徒同士による討論や共同研究、実験・観察実習、指導者による学習活動、関係諸機関への聞き取り等を通して、生徒の学習意欲を喚起することができ、研修内容を一層深めることができた。</p>	
③組織的・継続的な教職員指導者育成、及び普及活動の成果	
<p>平成26年度広島県科学オリンピック開催事業第1回広島県科学セミナーでの講義、中国地区SSH担当者交流会において口頭発表、平成26年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会での発表を行った。また、広島大学大学院生を対象にしてSSH海外研修の取り組みについて講演した。また、チェコ研修では広島県立広島国泰寺高等学校生徒5名と指導者1名が参加した。</p>	
② 研究開発の課題	
①定常的な海外連携による共同調査研究・発表・フィールドワークの実施の成果	
<p>生徒に対してこれまで取り組んで来た学習機会をできるだけ多く提供するとともに、得られた知見を相互につなぐ多様なプログラムを開発し、研修をより充実させる必要がある。また、事前学習は非常に効果的であり、今後とも計画的に継続することが必要である。</p>	
②開発する教育内容の深化・発展を図ることの成果	
<p>各国での研修を繋げていく取り組み、研修に参加した生徒同士を繋げていく取り組みが必要である。また、こうした共同研究を日常的に行うことが求められる。</p>	
③組織的・継続的な教職員指導者育成、及び普及活動の成果	
<p>現職教職員への定常的な普及活動、将来教育関係の指導者となる大学生および大学院生を対象とした研修を計画、実施する必要がある。</p>	